

## 025 太子町区有文書と目録作成について

1 太子堂の創建は寛永期といわれている。太子町は太子堂の建立にともない造られた町で、広い道幅と整然とした屋敷割りから門前町の形状がうかがえる（寛政4年「須坂町絵図」）。いつの頃か不明であるが、太子堂を中心に市が開かれ、近郷の交易の場所として繁盛していたと伝えられているが、いずれも区有文書では確証がつかめない。

太子堂はもとは普願寺の管轄下にあったが、江戸中期から太子堂屋敷の年貢を太子町組で須坂に上納してきたことから、須坂の所有を主張して普願寺側と交渉してきた。明治初年の廃仏毀釈でいったん廃寺となったが、再興の許可を得たことを機に浄念寺持ち（管轄下）となった。それ以降、町内に信徒組織をつくり、近郷近在の信徒、太子講員や商工業者の協賛を仰いで、祭事や太子殿の修復工事をおこなってきている。

毎年、3月21日・22日に行なわれる太子祭は“おおたいしゃん太子さん”と呼ばれて親しまれ、春恒例の祭りとして今も地域にしっかりと根づいている。

2 太子町の区有文書には宝永6年（1709）の文書を初め、太子信仰に関わる江戸期の文書8点と寛文6年（1666）刊の「聖徳太子傳」10巻など貴重な文書類、4600点を越える史料がある。

ここでは、その史料を『須坂市太子町区有文書目録』として作成する。

『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「025」（25番目）に位置付け、史料番号は「025-A-1」から開始し整理ラベルを貼付した。

3 文政10年4月の「屋敷絵図面帳」によると、道路を挟んで西側、東側ともに13軒ずつ計26軒が居を構えている。明治13年9月になると、戸数（世帯数）46戸、人口205人で明治初期の増加が目立つ。

明治32年には59戸、大正14年は76戸、昭和10年79戸と漸増してきた。

戦後になると東北部の宅地化が急速にすすみ、昭和50年には168戸と倍増し、平成20年4月現在では219戸になっている。

4 『須坂市太子町区有文書目録』は、史料内容の特徴から次のように分類した。総史料番号（枝番号を含む）は995点、総史料数は4633点に達している。

分類項目	史料番号	史料点数	箱数
A 行政	560	2990	8
B 土地	9	9	
C 信仰	426	1634	5
総計	995	4633	13

Aは夫銭割合帳・区費帳・賦課割合帳など連年にわたる区会計諸帳簿類と明治から大正期の消防関係書類などが保存されている。

Bは文政10年の屋敷絵図と明治初年の太子町絵図が町の形状の変遷をたどるうえで貴重である。

Cはほとんどが太子祭と太子殿等の修復関係の書類である。そのうち大正9年挙行の聖徳太子千三百年祭の寄付芳名帳が町内分と他郡市分を合わせて170余冊にのぼったことを特記したい。

5 本史料目録が、太子町区民をはじめ、須坂市民ほか多くの地域学習者・地域史研究者によって活用されることを願っている。加えて当区有文書の史料調査・研究をさらに深め、新たな事実を加えた区民の歴史を記述・編さんして子孫に伝えられることを期待したい。

6 史料目録の作成にあたっては、史料の現状・存在形態を尊重しつつ史料閲覧者の便宜も考慮しつつ次のようにした。

(1) 史料名は原則として史料中に記載された表題を記載したが、無表題の史料などには、次のように( )を用いて仮表題を作成し揚げた。

送券(火の見柱運賃) 見積書(壁・襖等)

(2) 領収書等同類複数史料については数量欄に総数を記し、備考欄には「便宜括り」と記載しておいた。

(3) 史料番号025-C-1～10の『聖徳太子傳』10巻は当初のとおり木箱入りにしてある。また「聖徳太子奉賛会文書目録」記載の木箱入りの文書は1点ずつ文書目録に記載し、備考欄に☆箱入りと記入した。

(4) 史料形態については、次のように略記した。

横(横帳)、横半(横半帳)、縦(縦帳)、冊(冊子)、紙(一紙・地図)、綴(紐綴じ、ジョイントも含む)など

7 本史料目録は、太子町のご理解・ご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担し作成した。

竹内正勝 井上光由

(編さん担当 青木廣安)

2009年7月31日 市誌編さん室